

Tinker Bell (日本イギリス児童文学会会誌)

総目次

創刊号 (1971年10月)

◆随想

- ◇ 民話の不思議 長内 彩乃
- ◇ 児童文学の出発 片岡 政昭
- ◇ 児童文学との出会い 宇山 直亮
- ◇ Children's Literature, My Experiences Anna Marie DeYong
- ◇ R.H. Blyth: Easy Poems のことなど 宗片 邦義

◆論文

- ◇ 『ちびくろ・さんぼ』 その翻訳と絵について 鈴木 邦子
- ◇ 口承文学における共通性の問題 石竹 智子
- ◇ Wilde の童話について
— *The Happy Prince* における Symbolism を中心として — 中野 節子
- ◇ 『トム・ソーヤーの冒険』 の今日的意義 北 弘志
- ◇ ルイス・キャロルのシルビーとブルノー — 失敗作の意義 — 鈴木 実

◆翻訳

- ◇ カナダの児童文学 Marjorie Mcdowell (山本 新治訳)

第2号 (1972年11月)

◆随想

- ◇ ホメーロスきちがい 高杉 一郎
- ◇ James Joyce の童話 田中 瑞枝
- ◇ 児童文学の「研究」ということ 岩崎 宗治
- ◇ 『楽しき川べ』 と私 友野 玲子
- ◇ 卒論と児童文学 森山 泰夫
- ◇ オーストラリア少年少女小説を読んで 片岡 政昭

◆論文

- ◇ The Witch: その実像と虚像
— *The Lion, the Witch and the Wardrobe* の場合 — 定松 正
- ◇ ビアトリクス・ポターの「ピーターうさぎのお話」について 鈴木 邦子

- ◇ 子供の中の大人 — 童話 *The Snow-Image* についての覚え書 鵜木 奎治郎
- ◇ ケルト伝説における生と死の思想 伊達 安子
- ◇ 日本の妖精 — ザシキワラシ 長内 彩乃
- ◇ “At the Back of the North Wind” にみる George MacDonald の宗教観 石竹 智子
- ◇ 『トム・ソーヤーの冒険』の一つの読み方 — 臨床心理学的に見たトム — 北 弘志

◆ 翻訳

- ◇ カナダの伝説と民話 Edith Fowke (山本 新治訳)

第3号 (1973年11月)

◆ 随想

- ◇ 「良心」の問題 みなみくみこ
- ◇ エリノア・ファージョンのファンタジー 長内 彩乃
- ◇ ポターの絵本 鈴木 邦子

◆ 論文

- ◇ メアリー・ポピンズの妖精たち
— 彼女がファンタジーの歴史の中で占める位置 — 後藤 栄子
- ◇ ジム・ホーキンスの役割 伊藤 武久
- ◇ 「赤ずきん」の逞しさと「優しい少年」の優しさと 鵜木 奎治郎
- ◇ Time Fantasy への一考察 — ‘Tom’s Midnight Garden’ の時の位相 — 定松 正
- ◇ W. H. Hudson と “The Little Boy Lost” 石竹 智子
- ◇ 『黙示文学としての「ナルニヤ国物語」 — アスランの象徴的意味を追って — 中野 節子
- ◇ ウォルター・デ・ラ・メアのファンタジー 鈴木 実

第4号 (1974年11月)

◆ 随想

- ◇ 終りからはじまる本 岩崎 宗治
- ◇ アリスの聞き分けた声 田中 瑞枝
- ◇ A BEAR CALLED PADDINGTON 杉本 深雪
- ◇ 児童文学の伝達者として 福士 璦子

◆論文

- ◇ *Huckleberry Finn* に於けるひとつの社会観 — 逃避か脱出か — 定松 正
- ◇ ワンダ・ブックのまなざし 鵜木奎治郎
- ◇ 〈未長く幸福に〉 — メアリー・ポピンズが訴えかけること 後藤 栄子
- ◇ 米民族音楽と児童文学 吉田 安男
- ◇ Laura Ingalls Wilder とアメリカ児童文学 石竹 智子
- ◇ 「Narnia 国物語」にみる善と悪 中野 節子
- ◇ E. ネズビットの児童像とファンタジー 鈴木 実

第5号 (1975年11月)

◆随想

- ◇ 無心童子 梶原 君江
- ◇ J.R. タウンゼント「現代の教訓主義について」 伊達 安子
- ◇ 『骨の城』の限界 — 2冊の『骨の城』をめぐる 村松美保子
- ◇ オーストラリアの児童文学の新しい風 片岡 政昭
- ◇ 英語教材児童文学寸感 門司 勝

◆論文

- ◇ 子供部屋からの脱出 — Eleanor Farjeon 考 — 矢島 美鈴
- ◇ グリナウェイとセンダクの絵本の冒険 鵜木奎治郎
- ◇ アフロ・アフリカン ファンタジー
(アモス・トゥートウラの2つの作品) 東 知子
- ◇ 木々と動物たちのあいだで
— 登場人物からみた「Narnia 国物語」 — 中野 節子
- ◇ イギリス児童図書とオズボン・コレクション 石竹 智子
- ◇ Walter de la Mare の子どものための詩について 鈴木 実

第6号 (1976年11月)

◆随想

- ◇ 「こわれた腕輪」の世界を求めて 清水真砂子
- ◇ E. コルウェル女史の来日に思うこと 荒井 督子
- ◇ Louis Fitzhugh のこと 島 式子
- ◇ Fantasy のすきま 橋本紀美代
- ◇ 趣味の問題 鈴木 実

◆論文

- | | |
|----------------------------|-------|
| ◇ファンタジーの構造 | 中野 節子 |
| ◇クローディアからエリノアまで | 篠塚久美子 |
| ◇アン・ヘリングと川端康成の童話 | 鵜木奎治郎 |
| ◇イギリス児童図書とオズボン・コレクション (II) | 石竹 智子 |

(注) 第6号から第22号へと飛ぶのは、事務局の交替時に「ニュース」の号数と混同があったために生じたことです。
(宮崎 敬子 記)

第22号 (1977年2月)

◆会長あいさつ

吉田 新一

◆随想

- | | |
|---------------------|-------|
| ◇絵本の存在感 | 武市八十雄 |
| ◇リアリティとリアリズム | 鈴木 実 |
| ◇イギリス・アイルランドの民話を訪ねて | 三宅 忠明 |

◆論文

- | | |
|----------------------|-------|
| ◇Grahamの九日間 —十六才の逃亡— | 斑目 三保 |
|----------------------|-------|

◆シンポジウム「リアリズムの児童文学」

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| ◇現代リアリズムのなかの子供たち | 定松 正 |
| ◇リアリズムとファンタジーと | 中野 節子 |
| ◇アメリカの新しいリアリズムの作品 | 島 式子 |
| ◇冒険小説と社会問題の結合 —オーストラリアのリアリズム児童文学— | 三宅 興子 |

◆随想

- | | |
|------------------|-------|
| ◇ファンタジーの中に生きている森 | 富田 泰子 |
|------------------|-------|

◆新刊紹介

- | | |
|---|-------|
| ◇Katherine Briggs: <i>A Dictionary of Fairies</i> | 増淵 正史 |
|---|-------|

◆書評

- | | |
|----------------------------|-------|
| ◇「ねずみ女房」 —ゴッデンのハッピー・エンディング | 金子美保子 |
| ◇「児童文学1976について」 | 鈴木 実 |

◆第7回大会記録

- | | |
|-------|-------|
| ・編集後記 | 鈴木 実 |
| | 谷本 誠剛 |

第23号 (1978年4月)

◆小特集：妖精の世界

- | | |
|---|-------|
| ◇ 妖精の塗葉と狼の眉毛 | 長内 彩乃 |
| ◇ トールキンの妖精観 | 水井 雅子 |
| ◇ Fairy の世界 | 酒井 萌子 |
| ◇ チャールズ・コーズリのこと | 吉田 新一 |
| ◇ 『トムは真夜中の庭で』の「時」に関して | 田村 繁三 |
| ◇ アリエッティの青春 | 廉岡 糸子 |
| ◇ 『台所のマリア様』を読んで | 角田 典子 |
| ◇ Children's Literature in College:
Sublimation of Love in Paul Galico's <i>The Snow Goose</i> | 長倉 礼子 |

◆52年度談話会レポート

- | | |
|----------------|---------------------|
| ◇ 「妖精について」 | 東京談話会報告 |
| ◇ 『ゲド戦記』をめぐって | 関西談話会報告 |
| ◇ 「もう僕等は50歳」 | アリソン・ルアリー (小池 純子訳) |
| ◇ 「ジャードウのおはなし」 | バー吉ニア・ハミルトン (島 式子訳) |

◆英語圏児童文学研究書・論文近刊リスト

- | | |
|--------|-------|
| ・ 編集後記 | 三宅 興子 |
| | 谷本 誠剛 |

第24号 (1979年4月)

- | | |
|---|-------|
| ◇ G.K. チェスタトンの『おとぎの国の倫理序』をめぐって | 長倉 礼子 |
| ◇ 伊太郎さんへのファンレター — 宇宙説話の旗手どの — | 金子美保子 |
| ◇ <i>Island of the Blue Dolphins</i> と <i>Indian Captive</i> にみる Heroine の生き方 | 廉岡 糸子 |

◆53年度大会報告

- | | |
|---|-------|
| ◇ 『指輪物語』における神話的世界 | 伊達 安子 |
| ◇ マーヴィン・ピークの世界 — そのファンタジーをめぐって — | 高桑 啓介 |
| ◇ サウスウォールとオーストラリアの児童文学 | 片岡 政昭 |
| ◇ 英語圏リアリズム児童文学の児童像
— イギリス児童文学大会シンポジウムからの報告 — | 原 昌 |

◆随想

- | | |
|-------------|-------|
| ◇ 本と児童文学のこと | 田中 瑞枝 |
| ◇ ゆびぬきとおなべ | 長内 彩乃 |

◆書評

- | | |
|-------------|--|
| ◇ 講座 日本児童文学 | |
|-------------|--|

「第一巻 児童文学とは何か」

片岡 政昭

◆文献

◇英語圏児童文学研究書・論文リスト (1978)

三宅 興子

・後記にかえて

谷本 誠剛

No.25 (1979年12月)

◇ポール・ガルドンの「さんびきのやぎのがらすけ」について

石竹 智子

◇Walter de la Mare とその思い出の世界

鬼塚 雅子

◇J.R.R.Tolkien: *The Lord of the Rings* における reality について

鈴木 敬子

◇妖精物語について — 言語学者と物語作者

中島 宗子

◇Is Aslan the lion in C. S. Lewis' *Narnia* an Allegorical Image of Christ?

長倉 礼子

◇ショッキングな話

長内 彩乃

◇児童文学：理論と実践

フェリシテイ・I・ヒューズ (増淵 正史訳)

◆昭和54年度総会 — 講演・シンポジウム報告

杉山 洋子／谷本 誠剛／長倉 礼子／原 昌

No.26 (1981年1月)

◇児童詩における「くり返し」 — Walter de la Mare の場合

鬼塚 雅子

◇「幸福な王子」賛歌

篠 三智雄

◇ドリトル先生の世界の終焉 — ドリトル先生と「月3部作」

中尾 真理

◇怪物たちが語る悪の構造 — トールキンの「妖精物語」の中から

水井 雅子

◇豚飼いの女中に見たもの — 『わたしは女王を見たのか』考 —

金子美保子

◇幻想動物の Sexology

長内 彩乃

◇大阪国際児童文学館について

三宅 興子

◇昭和55年度総会報告／研究発表及び分科会等の報告

鈴木 敬子／谷本 誠剛／田中 瑞枝／中野 節子

・あとがき

No.27 (1982年1月)

◇デ・ラ・メアの再話物語

鈴木 実

◇ミルンの童謡の訳をめぐる — 小田島訳へのいくつかの疑問 —

山田 正巳

◇ 児童文学における大人の視点と子供の視点 — ドリトル先生をめぐって —

中尾 真理

◇ 人間への愛とアイロニー — J.Thurber の *The 13 Clocks* を中心に

庭野 延子

◇ 時間の迷宮 — *Tom's Midnight Garden* 考 —

杉山 洋子

◇ 物語の中の手紙

鬼塚 雅子

◇ SF とファンタジー

長内 彩乃

◇ ある勉強会

富田 泰子

◆ 支部報告

◇ 東京談話会報告

吉井 紀子

◇ 名古屋部会報告

佐久間 良子 / 大塚 菊子

◇ 関西支部報告

三宅 興子

・ 昭和 56 年度総会の御案内

No.28 (1982 年 11 月)

◇ *The Chocolate War* について

杉本 深雪

◇ マーチペーンの殺意 — その行方 —

廉岡 糸子

◇ *The Cat and the Devil* 論考

田村 繁三

◇ 愛の円運動 — Paul Galico の *Snowflake*

長倉 礼子

◇ つぐみの髭の王様と黄色い小人

長内 彩乃

◇ 空気の流れにのって

鬼塚 雅子

◆ エッセイ

◇ たった一冊

森 百合子

◆ 支部報告

◇ (講話) ストーリー・テリングについて — おはなしの効用 —

講師：荒井 督子

(報告者)

伊達 安子

・ 昭和 57 年度総会の御案内

No.29 (1983 年 11 月)

◇ バニヤン『天路歷程』 — イギリス児童文学のひとつの原点として —

池本佐恵子

◇ 妖精国への入口 — J. ジェイコブズの昔話を中心に —

篠 三智雄

◇ イングランドのシンデレラ・ストーリー — 灯心草のフード —

北垣 篤

- ◇ 児童文学における少年と自我形成 — I. Southall: *Bread and Honey* を巡って
庭野 延子
- ◇ Katherine Mansfield の描く子供の世界と児童文学の視点
梶原 君江
- ◇ Spiller と Puck — 妖精像にみる作品の意味
半澤 景子
- ◇ 香りのする本
鬼塚 雅子
- ◆ 支部報告 〈東京〉
- ◇ (講話) 読みきかせの世界 文庫 10 年の歩みをふりかえって 講師：渡辺 順子
(報告者) 伊達 安子
- ・ 昭和 58 年度研究大会の御案内

No.30 (1984 年 11 月)

- ◇ 『指輪物語』の時
奥西 洋子
- ◇ 『トムは真夜中の庭で』 — 楽園についてのもう一つの物語 —
伊藤 聡子
- ◇ *Shadrach* と *A Dog So Small*
福岡眞智子
- ◇ *The Borrowers Avenged* — M. ノートンからのメッセージ —
半澤 景子
- ◇ Katherine Paterson の描く愛と憎しみ — *Jacob Have I Loved* を巡って —
白井 澄子
- ◇ アメリカインディアン観の変遷と児童文学
伊藤美智子
- ◇ *The Nursery Rhymes of England* について
藤野 紀男
- ◇ イングランドのシンデレラ・ストーリー — 猫の毛皮の話 —
北垣 篤

No.31 (1985 年 11 月)

- ◇ マザー・グースと ‘Wife-selling’
藤野 紀男
- ◇ 伝承と文学の中のゴブリン像
新居 正子
- ◇ 妖精の国 (Faërie) からのメッセージ — “Leaf by Niggle” から —
水井 雅子
- ◇ アイルランドの児童文学『馬の島』
奥西 洋子
- ◇ タウンゼント文学の少女像をめぐって
福岡眞智子
- ◇ Jo の娘たち
篠塚久美子

No.32 (1986 年 11 月)

- ◇ ケルト神話とシミリイ
奥西 洋子
- ◇ “Ring-a-Ring o’Roses” と Eyam
飯田 正美
- ◇ 反少年冒険物語としての *The Adventures of Huckleberry Finn*
藤森かよこ

- ◇『指輪物語』の中のエルフ像とその象徴的意味 新居 正子
- ◇不均衡と均衡と — *Jennifer, Hecate, Macbeth, William McKinley, and Me, Elizabeth* の場合 — 橋本紀美代

No.33 (1987年11月)

- ◇『秘密の花園』における庭のイメージ 川端 有子
- ◇ Identity に関する一考察 — de la Mare の物語に現れる3つの顔 — 鬼塚 雅子
- ◇『トムは真夜中の庭で』試論 — 時間の空間化の手法 — 平 倫子
- ◇ポターと伝承童謡 飯田 正美
- ◇絵本について 高橋 正和
- ◇村井弦斎の 'Kibun Daizin' 藤井 佳子

No.34 (1988年11月)

- ◇『黄金の鍵』に意味するもの 小峰 和子
 - ◇『ナーサリィ・アリス』をめぐって 吉井 紀子
 - ◇『指輪物語』の夢と幻 奥西 洋子
 - ◇ Philippa Pearce の "The Shadow-cage" における二つの「影の檻」 橋本紀美代
 - ◇耳による児童文学の理解 岡崎 昭子
- ◆新刊紹介
- ◇ E. ネズビットの新伝記から 長内 彩乃

◆インタビュー

- ◇「フィリップ・ピアスさんへのインタビューから」中部支部「老人と子ども」研究会

No.35 (1989年11月)

- ◇ルイス・キャロルの世界における遊戯性について 庭野 延子
- ◇ウォルター・デ・ラ・メアのポエティック・ファンタジー 斎藤 美加
- ◇エリナー・ファージョン：その才能と作品 岡崎 昭子
- ◇夢見るための空間 — E. Farjeon: *The Little Bookroom* をめぐって 伊達 恵理
- ◇ *The Lord of the Rings* における Frodo の心理的探索の旅 宮崎 敬子
- ◇ C.S. ルイス 「ナルニア国年代記」における信仰 本多 峰子
- ◇ Philippa Pearce における 〈darkness〉 橋本紀美代

No.36 (1990年11月)

- ◇『ファンタステス』 — 妖精の国の旅 小峰 和子
- ◇非在の庭 ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』をめぐって 川端 有子
- ◇ウォルター・デ・ラ・メアの作品における無垢と経験 斎藤 美加
- ◇ *The Lord of the Rings* における Samwise Gamgee の功績 宮崎 敬子
- ◇ C. S. ルイス「ナルニア国年代記」における懐疑 本多 峰子
- ◇『グリーン・ノウの子どもたち』小論 — マナー・ハウスについての考察 — 奥西 洋子

◆研究ノート

- ◇「親指トムの物語」をめぐって 依岡 道子

No.37 (1992年5月)

◆創立20周年記念論文募集結果報告

20周年記念論文佳作入賞論文

- ◇書評から見た『赤毛のアン』出版時の反響 桂 宥子
- ◇C.S.ルイスとトルキンのファンタジーの世界 伊達 桃子
- ◇ロイス・レンスキーの地域物語 廉岡 糸子
- ◇ *The Lord of the Rings* における神話的英雄について 宮崎 敬子
- ◇ Philippa Pearce の *The Way to Sattin Shore* における 〈darkness〉 橋本紀美代

No.38 (1992年12月)

- ◇ウォルター・デ・ラ・メアの短編における「影の統合」 川越 ゆり
- ◇ *Minnnow on the Say* 再評価の試み 橋本紀美代
- ◇ Catherine Storr の *Marianne Dreams* — 新たなる物語の時代へ — 川端 有子
- ◇豚飼い見習いは英雄の夢を見る — プラダイン年代記とウェイルズ伝承 — 森野 聡子
- ◇ *The Children of the Chapel* 試論 上村 盛人

No.39 (1993年11月)

- ◇タイム・ファンタジーの物語効果 菱田 信彦
- ◇ウォルター・デ・ラ・メアの怪奇小説とポエティックファンタジー 川越 ゆり
- ◇ Penelope Lively's *Going Back* — 児童文学と大人の文学の狭間で 川端 有子

- ◇「世界の反対側」への関心 — L.M. モンゴメリの作品における〈日本〉の意味
赤松 佳子

- ◇ O.H.Prouty の2作品における母娘の愛の葛藤
— 原作と児童向け翻訳作品のずれを考える
鬼塚 雅子

No.40 (1994年12月)

- ◇ イギリス児童詩の新しい波
谷本 誠剛
- ◇ C.S. ルイスの作品における女性像 — なぜ会話体なのか—
伊達 桃子
- ◇ 『いにしえの少女バルイエット』と『ふくろう模様の皿』を考える
藤代恵美子
- ◇ R. サトクリフの再話作品について (その1) 『トリスタンとイズート』
酒井 萌子
- ◇ E. L. カニグスバーグのアンビヴァレンス
横田 順子

No.41 (1995年12月)

- ◇ ペネロピ・ライヴリーの『アスターコート』
— ファンタジーの構図を読む—
川端 有子
- ◇ 非現実の中の現実 — アルドはなぜマフラーをしていたか—
藤本 朝巳
- ◇ ウォルター・デ・ラ・メアのファンタジーにおけるヴィジョンナーたち
川越 ゆり
- ◇ Margaret Mahy の *Memory* における記憶の意味
橋本紀美代
- ◇ アイルランドの輝く星 — アイルランドの「白雪姫」
岩瀬ひさみ
- ◇ アフリカ系アメリカ児童文学草創期
— Amelia E. Johnson と W. E. B. DuBois の試み
吉岡志津世

No.42 (1996年11月)

- ◇ 「インドからきた女の子」 — 『秘密の花園』における植民地と子ども
戸田山みどり
- ◇ S. F. ファンタジーをめぐって — C. S. ルイスと宮沢賢治
鍵山真由美
- ◇ C.V. オールズバーグの絵本の謎を解く — 遠近法・構図・色彩—
藤本 朝巳
- ◇ 児童文学批評における受容理論の可能性についての提言
水野 斎木
- ◇ *Mother Goose's Melodies* に関する一考察
藤野 紀男

No.43 (1998年1月)

- ◇ Margaret Mahy の *The Tricksters* における原型反復 橋本紀美代
- ◇ なぜトム・ブラウンは学校に行き、オズワルドは行かないのか
— 学校小説のジェンダーとイデオロギー — 森野 聡子
- ◇ 原初的言語が作るネットワーク — 『潮風のおくりもの』をめぐって— 斎藤 美加
- ◇ The Significance of the Golden Age of American Children's Classics:
Huckleberry Finn, Toby Tyler, and the Birth of American Imperialism 辻 和彦
- ◇ 「解釈」としての「翻訳」
— *Clever Polly and the Stupid Wolf* の翻訳に関する一考察 笹田 裕子
- ◇ 内なる楽園 — *Tom's Midnight Garden* における庭の意味 安藤 聡

No.44 (1999年1月)

- ◇ もう一つのノンセンス — Edward Lear's Longer Poems 太田 純
- ◇ ラフカディオ・ハーンの「浦島」における「夏の日々の夢」 光畑 隆行
- ◇ 『小公子』再読 — 神話の解体— 川端 有子
- ◇ 「キャロライン」とは何か?
— E. L. Kanigsburg の *Father's Arcane Daughter* における「異人」の役割— 横田 順子
- ◇ 『のっぼのサラ』における複眼的視線 斎藤 美加

No.45 (2000年3月)

- ◇ *The Earthsea Quartet* におけるリビジョン
— 見直すテナーと見直される世界— 織田まゆみ
- ◇ Daughter's Writing: The Search for the Mother and Identity
A Study of Berlie Doherty's *Dear Nobody* 大脇美智子
- ◇ 宇宙船の Gulliver — *Out of the Silent Planet* と *Gulliver's Travels* 鍵山真由美
- ◇ *The Adventures of A Donkey* 論
— 19世紀初頭における動物物語の一潮流— 多田 昌美

- ◇ 赤い上着、青い上着、オオカミの縫いぐるみ
— サンボ、ピーター、マックスと衣服をめぐる冒険 — 戸田山みどり
- ◇ Toy Books in 1865: The evolution of popular Victorian picture books 正置 友子
- ◇ 自由への飛翔：*Tehanu* におけるダブル・ヴィジョンの意味 松本 祐子
- ◇ *Dear Nobody* が提示するもの — 母子の絆の再構築をめぐる — 水間 千恵
- ◇ パトリシア・マクラ克蘭作品における幸福感と現実感の構築 横田 順子

No.46 (2001年2月)

- ◇ *At the Back of the North Wind* における挿入話 芦田川祐子
- ◇ インド／フランス／イギリス — 『小公女』 における文化の多義性 川端 有子
- ◇ How Golding Revises Ballantyne: A Reflection on the
“Evil” and “Relief” in *Lord of the Flies* 水間 千恵
- ◇ E. L. カニグスバーグとポーラ・フォックス
— その現実認識とテキストの関係から — 横田 順子

No.47 (2002年2月)

- ◇ 内山賢次の翻訳意識
— “Lobo, the King of Currumpaw” の翻訳を中心に — 小谷加奈子
- ◇ “Mary, Mary, quite contrary” を読む
— 聖母マリアから『秘密の花園』まで — 夏目 康子
- ◇ Sara Coleridge の *Phantasmion* — その成立と成果 — 藤井 佳子
- ◇ Doherty 作品における母親探しの旅
— *Dear Nobody* から *Daughter of the Sea* まで 水間 千恵
- ◇ The Search for a New Narrative of Manhood in Myers’s *Fallen Angels* 吉田 純子

No.48 (2003年2月)

- ◇ 踊るコヨーテと少女
— “Buffalo Gals, Won’t You Come Out Tonight” における境界空間 — 織田まゆみ
- ◇ Diana Wynne Jones 作品における変容の考察 岸野あき恵
- ◇ J. R. R. Tolkien, *The Hobbit* の翻訳 田中美保子
- ◇ *The Silmarillion* におけるノルドール族の“闇” 田淵 桂子

- ◇ 国家的身体の創出 — *Westward Ho!* における「性」 — 水間 千恵

No.49 (2004年2月)

- ◇ 再結合と再分割 — *The Other Wind* におけるポリフォニー — 織田まゆみ
- ◇ セドリックをジェンダー化する
— 『小公子』の批評的受容をめぐって 川端 有子
- ◇ “The Reluctant Dragon”の翻訳をめぐって
— グレアムの「ものぐさ」の哲学 田中美保子
- ◇ ダイアナ・ウィン・ジョーンズの世界観
— *Hexwood* におけるヴァーチャル・リアリティー空間の意味するもの 松本 祐子
- ◇ Telling a New Narrative of American Adam and His Manhood in
I Am the Cheese 吉田 純子

No.50 (2005年2月)

- ◇ On the Reading of Fairy Tales 芦田川祐子
- ◇ ダイアナ・ウィン・ジョーンズの表現技法 鈴木 道子
- ◇ 人形ファンタジーにおける「家」と「家族」 伊達 桃子
- ◇ *A Pack of Lies: Twelve Stories in One* の構造を読む 林 早都子
- ◇ 辺境からの帰還 — 『太陽の戦士』に見られる可能性と限界 — 本間 裕子
- ◇ *Wützie Bat* にみるポストモダン・ファミリー 吉田 純子

No.51 (2006年2月)

- ◇ Edward Gorey's Nonsense through the Theory of Relevance 太田 純
- ◇ おおかみは、なぜケーキを焼くのか
— あるいはなぜ、ふたはひげをそるのか — 林 早都子
- ◇ ハリー・ポッターとイギリス階級社会 菱田 信彦
- ◇ Until When Does the Magic Last?: The Magic in Eleanor Farjeon's Fantasy 山口 敦子

No.52 (2007年3月)

- ◇ ジャカネイプスは勇敢な軍人だったのか？
— ニックネームを「借用」したユーイングとキップリング — 上石実加子
- ◇ お伽噺批評と書かれた声 芦田川祐子
- ◇ 挿絵から見るヴィクトリア朝の少女像
— 女性挿絵画家ケイトと・グリーナウェイとメアリ・エレン・エドワーズ — 木原 貴子
- ◇ Philip Pullman の物語作法 — *Clockwork or All Wound Up* を中心に — 小山 明代
- ◇ 封印された物語 — *Elske* における Beriel の眼差し — 高橋 博子
- ◇ “Eena, Meena, Mina, Mo” を読む — その受容と問題点 — 夏目 康子

No.53 (2008年3月)

- ◇ 喜びの失われたナルニア
— 映画 *The Lion, the Witch, and the Wardrobe* に関する一考察 — 岸野あき恵
- ◇ ナルニアは何と戦ったのか？ 戸田山みどり
- ◇ メランコリーなジムとシルヴァの二心 — 『宝島』 福田 泰久
- ◇ 孤児救済活動の先駆性
— Louisa May Alcott の *Little Men* と *Joe's Boys* における包摂と排除 — 本岡亜沙子
- ◇ Abjection of Horror in Cynthia Kadohata's *The Floating World* 吉田 純子

No.54 (2009年3月)

- ◇ アリスは食べるのか、食べられるのか
— 不思議の国・鏡の国における捕食関係の意味 川端 有子
- ◇ A. A. Milne の2冊の *Pooh* の先行作品としての *Once on a Time* における
喜劇的要素に関する一考察 笹田 裕子
- ◇ *The Planet of Junior Brown* と映画 *Junior's Groove*
— 少女, planet, street の観点から — 鈴木 宏枝
- ◇ 石井桃子の翻訳研究 — 『クマのプーさん』のユーモア — 竹内 美紀
- ◇ A Study of the Nursery Rhyme “There Was a Crooked Man”:
Its Narrative Style and Illustrations 夏目 康子
- ◇ 文学の出自としての声の文化

- ラドヤード・キプリング『なぜなの物語』論 — 宮尾レイ子
 ◇ 誘惑される国家身体 — *Dear Enemy* における遺伝決定論 — 森 有礼
 ◇ Constructing Cultural Memory beyond the Limits of Narrative
 in *So Far from the Bamboo Grove* 吉田 純子

No.55 (2010年3月)

- ◇ Katharine Paterson の *Lyddie* における 19 世紀アメリカの
 ワーキングガールの成長 大喜多香枝
 ◇ 〈食〉の共同体を巡って
 — ロバート・ウェストールの『海辺の王国』 — 川端 有子
 ◇ A. A. Milne の 2 冊の *Pooh* における E. H. Shepard の挿し絵の機能 笹田 裕子
 ◇ 訳者の読みと翻訳 — 石井桃子訳 *The Wind in the Willows* の比較研究 — 竹内 美紀
 ◇ アンヴァニシング・インディアン
 — *The Birchbark House* における過去の創出 — 徳永紀美子
 ◇ ティモシイのだいなコート
 — アーサー・ランサム作品における階級表象 — 菱田 信彦
 ◇ 愚者という知恵
 — レオン・ガーフィールド『見習い物語』を読む — 宮尾レイ子
 ◇ Constructing a New Community of Chronotope in Park's *A Single Shard*
 吉田 純